

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	生涯学習概論（Life Learning）						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	夏 目 千 恵 子								
履 修 条 件	前提科目	生涯学習概論Ⅰを受講していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 生涯学習と社会教育、学校教育などの関係を明らかにし、次いで、わが国の社会教育の歴史を辿りながら生涯学習の現在をできるだけわかりやすく、できるだけ具体的に解説します。生涯学習の方法や社会教育行政の特質、社会教育計画、生涯各期の教育課題、生涯学習と社会教育をめぐる問題についても概観します。									
授業目標： (1)生涯学習、社会教育、生涯教育、生涯学習社会等の概念について説明できる。(2)生涯学習と社会教育・家庭教育・学校教育との関係について説明できる。(3)生涯学習推進に関わる法令、行政の仕組み、施策について説明できる。(4)社会教育の意義、内容、方法・形態について説明できる。(5)社会教育関係の指導者としての社会教育主事、司書、学芸員、社会教育委員、公民館主事、青少年教育施設の指導系職員、ボランティア・リーダー等の職務や役割について説明できる。以上5点がこの授業の目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーションー授業のテーマや到達目標などについて解説するー					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
2	生涯教育論の登場					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
3	生涯学習と社会教育					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
4	生涯学習と社会教育の歴史(1)					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
5	生涯学習と社会教育の歴史(2)					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
6	生涯学習と学校教育					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
7	生涯学習関連行政の仕組み					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
8	生涯各期の教育課題					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
9	生涯学習と社会教育の計画					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
10	生涯学習の方法と内容					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
11	学習プログラムの編成					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
12	生涯学習と社会教育施設					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
13	生涯学習と社会教育職員					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
14	生涯学習と社会教育をめぐる課題					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
教本： 佐藤晴雄著『生涯学習概論』学陽書房2020年 第2次改訂版									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 試験（60%）、レポート（20%）、平常点（20%）。									
学生へのアドバイス： 生涯学習論1を修得した上で、生涯学習論2を履修してください。									
オフィスアワー： 月曜日のお昼休み									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	博物館概論 (Introduction to Museology)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	増田 裕彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	高校レベルの世界史、日本史の知識が必要になる。GoogleClassroomを使用する。							
授業概要： 博物館について包括的に学ぶ。毎回の授業終了前に小テスト/リアクションペーパーを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。									
授業目標： 1. 博物館の歴史と現状について理解する。 2. 学芸員資格のための基礎を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	1章「博物館学とは」：博物館学が対象とする博物館の定義・目的・機能・組織について学ぶ。					事前：博物館のイメージ 事後：1章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
2	2章「博物館と学芸員」：日本における博物館の種類と現状について概観した後、学芸員の役割について把握する。					事前：学芸員の流行 事後：2章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
3	3章「ヨーロッパと北米における博物館の歴史」：ヨーロッパとアメリカの博物館の歴史と現状について学ぶ。					事前：外国の博物館 事後：3章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
4	4章「アジアとアフリカにおける博物館の歴史」：アジアとアフリカの博物館の歴史と現状について学ぶ。					事前：外国の博物館 事後：4章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
5	5章「日本における博物館の歴史」：日本の博物館の歴史と現状について学ぶ。					事前：日本の博物館 事後：5章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
6	6章「博物館展示のメッセージ性」、7章「博物館展示の手法・技術」：博物館展示の意味と伝達と解釈、分類について学ぶ。					事前：博物館訪問振り返り 事後：6章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
7	8章「博物館と研究活動」：博物館の調査研究活動や成果公開をめぐる問題について概観する。					事前：研究のイメージ 事後：8章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
8	9章「博物館の情報・メディア」：アナログ、デジタルの多様なメディアでの博物館の情報発信について学ぶ。					事前：デジタルミュージアム 事後：9章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
9	10章「博物館資料の保存と修復」：博物館資料の予防保存の考え方、要点について学ぶ。					事前：モノの保存と修復技術 事後：10章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
10	11章「文化財の保存と活用」：文化保護行政の展開と安全な博物館づくりについて学ぶ。					事前：文化財のイメージ 事後：11章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
11	12章「博物館と教育」：博物館の利用者、社会に貢献するために博物館が提供する教育機会について学ぶ。					事前：教育のイメージ 事後：12章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
12	13章「博物館と様々な連携」、14章「国際社会における博物館の連携」：博物館 と他の機関や専門家等との多様な形態の連携について学ぶ。					事前：協働 事後：13・14章の復習		講義 75 分 課題 15 分	
13	15章「博物館の現在と未来」：現在の課題と未来に向けての取り組みについて 学ぶ。					事前：ノート整理 事後：テスト準備		講義 75 分 課題 15 分	
14・15	授業全体の理解度を最終テストで確認する。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。					事前：テスト準備 事後：振り返り		講義 30 分 テスト 60 分	
教本： 鶴見英成、[新訂]『博物館概論』放送大学教育振興会、2023 年、¥3,100 + 税									
参考文献： そのつど紹介する									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。遅刻や欠席は原則として認められません。									
学生へのアドバイス： 各種情報や様々な現象を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	博物館教育論（Museum of Education Theory）						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	博物館概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 博物館は資料を収集し、展示し、保存する学習機関です。博物館にはどのような教育が可能のか。その利用形態にはどのようなものがあるのか。どのように成果を共有することができるのか。現代社会における博物館のあり方も含めて授業を進める。									
授業目標： 博物館教育に関する具体的な方針を自ら工夫してみること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	博物館の現代的位置付け				事前：なし 事後：復習			講義90分	
2	博物館教育とは何か				事前：なし 事後：復習			講義90分	
3	博物館法と教育				事前：なし 事後：復習			講義90分	
4	博物館教育についての若干の理論				事前：なし 事後：復習			講義90分	
5	博物館教育のための環境整備				事前：なし 事後：復習			講義90分	
6	博物館教育のための人的資源				事前：なし 事後：復習			講義90分	
7	博物館資料と展示				事前：なし 事後：復習			講義90分	
8	博学共同とは何か				事前：なし 事後：復習			講義90分	
9	教育プログラムの作成				事前：なし 事後：復習			講義90分	
10	教育プログラムの成果と評価				事前：なし 事後：復習			講義90分	
11	博物館教育と地域社会				事前：なし 事後：復習			講義90分	
12	生涯学習の意義と博物館教育				事前：なし 事後：復習			講義90分	
13	自分が考える博物館教育				事前：下調べ 事後：復習			報告とディスカッション90分	
14	自分か考える博物館教育 2				事前：下調べ 事後：復習			報告とディスカッション90分	
15	まとめと復習				事前：総合的な復習 事後：なし			レポート作成90分	
教本： なし					参考文献： その都度紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50％）、小テスト・レポート等（50％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 最終的なレポートだけでなく、授業半ばで小さなレポートを課すこともあります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	博物館経営論 (Museum Management)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 博物館の経営基盤がどのように成り立っているのか、実例に基づき解説。博物館経営の目的を明らかにし、博物館における使命・計画・実施・評価の現状の流れについて知り、創造都市論的視座にたち、地域文化の拠点としての博物館の役割を理解する。具体的にはマーケティングの実施、広報、ショップ等の付帯事業、危機管理や倫理規定、市民参加、地域連携等について解説する。									
授業目標： 現代の博物館では様々な事業を地域と連携して展開していることを、東京都江戸東京博物館等での実務経験に基づいて示し、経営論的視座から解説し、以下を到達目標とする。①博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解する。②ミュージアムマネジメント＝博物館経営に関する基礎的な概念を説明できるようにする。③具体的に博物館経営を実践するための基礎的能力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方の説明。現代社会における博物館経営論の必要性を考える。新聞記事の読み込み。					事前：博物館経営についてネットで調べる。 事後：授業の進行、今後の予定等について資料を読み再確認しておく。		講義(70分)、 アンケート(20分)	
2	経営基盤1 博物館の行財政制度 博物館の行財政制度と財務の実態。地方自治体と博物館との関係を示す。					事前：博物館法に目を通しておく。国や地方自治体の予算と決算について調べる。 事後：予算と決算について、まとめておく。		講義(80分)、 小テスト(10分)	
3	経営基盤2 博物館の施設と設備 施設と設備、予算と建築の関係、ユニバーサル化について解説する。					事前：バリアフリーについて調べる。 事後：バリアフリーと展示手法について。		講義(80分)、 小テスト(10分)	
4	経営基盤3 博物館の組織・職員 博物館の組織のあり方。業務委託の実態について。					事前：博物館に必要な職種について考える。 事後：博物館スタッフの職種について。		講義(80分)、 小テスト(10分)	
5	経営基盤4 ミュージアムマネジメント 博物館経営とは何か。運営と経営の違いを考える。					事前：経営と運営について、辞書等を引く。 事後：博物館経営とは何かを確認。		講義(80分)、 小テスト(10分)	
6	博物館の経営1 PDCA サイクルと評価 PDCA サイクルの必要性、計画、実施・評価について解説する。評価の積み上げと定量評価と定性評価について。					事前：PDCA サイクルとは何か調べる。 事後：博物館経営のPDCA について		講義(80分)、 小テスト(10分)	
7	博物館の経営2 博物館の危機管理と倫理 予防管理、リスクマネジメントの必要性、博物館の倫理規定と学芸員の行動規範について。					事前：コンプライアンスについて調べる。 事後：授業業内容を再確認する。		講義(80分)、 小テスト(10分)	
8	博物館の経営3 博物館広報 広報と広告について。博物館広報を具体的に例示し、プレスリリース等について。					事前：広告と広報の違いは何か調べる。 事後：広告と広報の違いについて確認する。		講義(30分)、 演習(60分)	
9	博物館の経営4 ミュージアムショップとレストラン これらの施設が博物館経営上重要であることを示す。					事前：好きなショップについて、調べる。 事後：ショップと販売戦略について確認。		講義(80分)、 小テスト(10分)	
10	博物館の経営5 ミュージアムグッズと収蔵資料 売れるオリジナルグッズの作り方、販売について。					事前：博物館のオリジナルグッズについて、調べておく。 復習：売れるオリジナルグッズの作り方		講義(45分)、 演習(45分)	
11	博物館における連携1 市民参画 ボランティアや友の会について。パートナーシップ制度等。					事前：用語についてネット等で調べる。 事後：ボランティア教育の必要性について。		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
12	博物館における連携2 地域振興と博物館 地域や企業との連携の具体的事例を解説し、実践について学ぶ。					事前：特別展示のチラシを入手し、協賛や主催、協力の違いについて。 復習：授業の内容を再確認する。		講義(80分)、 小テスト(10分)	
13	博物館における連携3 都市の再生と芸術文化。創造都市論の中での市場創造活動、環境クラスターについて。					事前：創造都市論について調べる。 復習：授業の内容を再確認する。		講義(70分)、 小レポート作成(20分)	

14	ミュージアムマネジメントの実際。ミュージアムマネジメントの進め方について実践的に学ぶ。	事前：事前配布資料を読み込む。 復習：授業の内容を再確認する。	講義(60分)、 演習(30分)
15	まとめ 課題レポート内容の発表と提出。全体をまとめた説明。	事前：最終課題について提出物を確認。 復習：全体的な流れと体系を理解する。	講義(45分)、 ディスカッション(45分)
教本： 小林克『新博物館学—これからの博物館経営—』同成社		参考文献： 上山信一・稲葉郁子『ミュージアムが都市を再生する』日本経済新聞社 フリップ・コトラー、ニール・コトラー『ミュージアムマーケティング』 第一法規	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 毎回配布する資料プリントから定期試験等は出題します。資格取得必要科目なので、出来るだけ欠席しない事。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	3	時 間 数	60	授業形態	実 習
授業科目(英文)	博物館実習（Practical Training in Museum）						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	博物館概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論、博物館情報・メディア論							
	そ の 他	授業外の課題として博物館を見学しレポートを提出する。館園実習は 5 日前後であり必ず参加する							
授業概要： 博物館資料の記録を作成し資料化し、公表して活用するかを講義し、学生に実技指導する。博物館での学芸員経験をもとに、各種資料の基本的な取り扱い方法と、その基礎知識を習得し、学生が実技を習得する。展覧会の企画立案と実施について講義し、学生が一部を実際に試行する。学芸員業務を理解し、実践・実習するため、博物館を 5 館以上見学し、一週間程度の館園実習を行う。									
授業目標： 人文系博物館の主要な資料について、記録化し公開するための基本的な技術を習得し、そのために必要な作業を行えるようにする。人文系博物館に多い各種資料の取り扱いを身につけ、その上で特別展を自ら企画して展示を行うための基礎的かつ実践的な技術を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：授業のテーマである、博物館・学芸員の役割と実務、授業の到達目標と方法について説明。					事前：シラバスを読み、授業で説明できるようにする。 事後：2 回目以降必要なものを用意。		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
2	資料の記録化(1)：資料収集の流れ（収集全体の流れと進め方、その背景について講義）。					事前：博物館の 4 つの機能と、博物館資料とは何か確認しておくこと。 事後：博物館資料とする手続きとその根拠について博物館法等で確認。		講義(90分)	
3	資料の記録化(2)：聞き取りと資料カード作成（講義後数人のグループで聞き取りを実際に行う）。					事前：「資料」について用意し、忘れずに授業に持ってくる。 事後：聞き取り内容を整理。		講義(20分)、 実技(70分)	
4	資料の記録化(3)：資料カード作成とフィルムカメラでの写真撮影（聞き取りのメモから資料カードを作成。写真の意義と実際について講義）。					事前：カード記入のための辞書等を用意。 事後：写真撮影の手順を再確認。		講義(45分)、 実技(45分)	
5	資料の記録化(4)：資料の写真撮影 数人のグループで実際にライティングを行い、写真撮影を実施。					事前：フィルムカメラの使用方法を前回の資料を復習し確認。 事後：写真撮影の流れを再度確認しておく。		講義(30分)、 実技(60分)	
6	資料の記録化(5)：資料の写真撮影と整理（現像した写真の整理と台帳整理。資料カードへの貼付けとカードの完成）。博物館見学の説明。館園実習の説明(1)					事前：資料カード作成方法の復習。 事後：資料カード作成方法の復習。		講義(30分)、 実技(60分)	
7	博物館見学					事前：エンピツを用意、爪のチェック等。 事後：見学内容をメモに纏める。		講義(80分)、 ディスカッション(10分)	
8	博物館見学					事前：エンピツを用意、爪のチェック等。 事後：見学内容をメモに纏める。		講義(80分)、 ディスカッション(10分)	
9	資料の記録化(6)：実測①講義後の実演を見てメモを取り、各自で実測のために方眼紙上に資料を設置。					事前：実測用具の確認。 事後：講義の再確認。		講義(50分)、 実技(40分)	
10	資料の記録化(7)：実測②（実測実技・器形と断面）					事前：実測用具の確認。 事後：講義の再確認。		実技指導(20分)、 実技(70分)	
11	資料の記録化(8)：実測③（実測実技・文様の割付、底面等）					事前：実測用具の確認。 事後：講義の再確認。		実技指導(20分)、 実技(70分)	
12	資料の記録化(9)：拓本①（講義と小林による実演 実技のための事前準備）					事前：拓本についてネット等で調べる。 事後：講義の再確認。		講義(60分)、 実技(30分)	
13	資料の記録化(10)：拓本②（各自実技） 館園実習の説明(2)					事前：前回の講義を確認し本日の手順確認。 事後：本日の授業のまとめ作成。		実技指導(20分)、 実技(70分)	

14	資料の記録化(11): 動画撮影の基本と実際について講義。	事前: 自分のカメラやスマホの動画スペックを確認。 事後: 講義の再確認。	講義(60分)、 実技(30分)
15	資料の記録化(12): 作成した動画の整理と利用方法について。	事前: 前回配付資料の再確認。 事後: 本日の授業のまとめを再確認。	講義(60分)、 実技(30分)
16	資料の取り扱い(1): 陶磁器等 配布資料と板書により講義し、小林が実演する。その後各自で実技。具体的には各種木箱の紐を結べるようにする。	事前: 事前配付資料の確認。 事後: 配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(30分)、 実技(60分)
17	資料の取り扱い(2): 卷子 配布資料と板書。学生がグループで実技。卷子を展示し、収納できるようにする。	事前: 事前配付資料の確認。 事後: 配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(30分)、 実技(60分)
18	資料の取り扱い(3): 掛軸 配布資料と板書。学生が実技。掛軸を展示、収納できるようにする。	事前: 事前配付資料の確認。 事後: 配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(30分)、 実技(60分)
19	資料の取り扱い(4): 屏風 配布資料と板書する。学生がグループで実技。屏風を展示し、収納できるようにする。	事前: 事前配付資料の確認。 事後: 配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(30分)、 実技(60分)
20	資料の取り扱い(5): 着物・民具等 配布資料と板書。学生が実技。着物や民具について展示し、収納できるようにする。	事前: 事前配付資料の確認。 事後: 配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(30分)、 実技(60分)
21	資料の取り扱い(6): 美術資料、版本や手紙など歴史資料の取り扱いと展示方法について、小林の実演の後、学生が実技。	事前: 事前配付資料の確認。 事後: 配付資料の確認とイメージトレーニング実施。	講義(45分)、 実技(45分)
22	資料の取り扱い(7): 今まで実習した資料の取り扱い方についてまとめて確認する。実技テストと小テスト。	事前: 事前配付資料の確認とイメージトレーニング。 事後: 配付資料の再確認。	講義(20分)、 実技テスト(30分)、 小テスト(30分)
23	展覧会の実務(1) 展示作成の流れと調書作成。講義とパワーポイントによる説明。	事前: 実施中の展覧会について調べる。 事後: 展示作成の流れと調書を再確認。	講義(90分)
24	展覧会の実務(2) 調書作成。グループで調書作成の実技実施。小林が批評。	事前: 調書作成について手順を確認。 事後: 調書作成の要点を纏める。	講義(20分)、 実技(70分)
25	展覧会の実務(3) 展示企画案の作成① 展示構成・解説パネル・キャプション等について講義し解説。	事前: 実施中の展覧会について調べる。 事後: 展示企画案についての構想を練る。	講義(90分)
26	展覧会の実務(4) 展示企画案の作成② 小林が講義した後に学生が企画提案を作成。	事前: 展示企画案について検討する。 事後: 展示企画案について纏める。	講義(45分)、 実技(45分)
27	展覧会の実務(5) 学生が企画提案書をプレゼンテーション。展示解説系に関する講義。展示作成作業。キャプションや解説系のスタイルを決定。	事前: 実施中の展覧会について調べる。 事後: キャプション、解説パネルの内容を作成する。	講義(45分)、 実技(45分)
28	展覧会の実務(6) 解説文・パネル・キャプションの作成。館園実習の説明(3)	事前: キャプション、解説パネルの内容を作成する。 事後: キャプション、解説パネルの修正。	講義(20分)、 実技(70分)
29	展覧会の実務(7) 解説文・パネル・キャプションの作成。小林の実演の後、ハレパネで解説系を作成。	事前: キャプション、解説パネルの修正。 事後: 模擬資料の作成。展示の説明を確認。	講義(10分)、 実技(80分)
30	展覧会を作る 陳列作業 展示の一部を再現。模擬資料やキャプション等を並べ、展示の概要を説明する。小テスト実施。館園実習の説明(4)	事前: 解説関係の再確認。模擬資料の作成。展示の説明について原稿作成。 事後: 館園実習についての予習を行う。	講義(20分)、 実技(70分)
教本: 参考文獻: 小林 克『新博物館学—これからの博物館経営—』同成社 その都度指示する。			
成績評価の方法、評価基準: 授業参加状況等(20%)、実技の習得状況、実習成果物等(40%)、小テスト・レポート等(40%)等で総合評価する。			
学生へのアドバイス: 資格認定科目であり、出来るだけ休まずに出席すること。実習という性格上、進捗状況により授業内容が変わる場合がある。			
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	博物館情報・メディア論（Museum Information and Media）						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 博物館における情報の意義と利用方法を理解し、収蔵品のデジタル化の方法とメディアへの保存、デジタル化した情報の発信と保守について理解する。 著作権法等の意義を理解し、収蔵資料のデータベース化を行うことで応用を図り、調査研究・情報管理・公開に関する情報の取り扱いについて習得する。 その為に様々な博物館の事例を示し、分かりやすく解説する。									
授業目標： ①博物館における情報・視聴覚資料提供の基本的考え方と、用いる情報機器の概要について理解して説明できるようになる。 ②21世紀にはいり格段に進んだ、博物館における情報の提供と活用に関する基礎的能力を得る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。現代の生活と情報メディア、博物館との関わりについて					事前：スマホ等で博物館 HP を見る 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、アンケート(20分)	
2	博物館情報とは何かー情報の意義ー 博物館を取り巻く現代社会における情報の活用について					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
3	博物館と情報の種類。一次資料、二次資料、ストック情報とフロー情報について					事前：収蔵資料を博物館 HP で見る 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
4	博物館活動と情報の諸相。資料のドキュメンテーションとデータベース化について					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
5	展示活動と情報ーアナログからデジタルへ。常設展示室や教育普及活動での映像やデジタルデータ活用					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
6	資料のデータベース化とその応用。具体的な資料情報システムの意義と活用状況について					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
7	情報公開と広報活動。博物館の広報活動にどのように情報を利用するかその実際について					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
8	資料情報の抽出・記録化。実際に博物館資料からどのように情報を抽出し記録化するか、資料カード作成を実施					事前：チラシ等を博物館 HP で見る 事後：配布資料の内容確認		講義(30分)、演習(60分)	
9	博物館と知的財産。博物館における著作権法や様々な知的財産権との関わりや処理の実際について					事前：関連事項を文化庁 HP で見る 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
10	発信される博物館情報。インターネットを利用した博物館の情報提供や、各種サービスの実態について					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、演習(45分)	
11	博物館活動の情報化。博物館での調査研究活動、教育普及活動の記録化の歴史とデジタル化の実情					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、ディスカッション(20分)	
12	デジタルアーカイブとデジタルミュージアム。幾つかの博物館で実施されている具体例から実態と課題をみる					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、小テスト(10分)	
13	博物館運営と情報メディア利用の実際。さまざまな博物館の映像から情報メディア利用の実際を確認					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、小レポート作成(20分)	
14	インターネットと情報端末の利用。スマホ等を利用した展示・教育普及活動について解説し、課題を提示する					事前：関連事項をネットで検索 事後：課題レポート作成継続		講義(60分)、演習(30分)	
15	まとめ 課題レポート内容の発表と提出。全体をまとめた説明					事前：課題発表の確認 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、デスカッション(45分)	
教本： 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。					参考文献： 西岡貞一・篠田謙一2013『博物館情報・メディア論』放送大学教育振興会他にも、その都度提示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 博物館見学の課題を出します。資格取得必要科目なので、出来るだけ欠席しない事。欠席がある場合は追加で課題を出します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	博物館資料保存論 (Preservation of Museum Collections)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 博物館における資料保存の意義を確認し、各種博物館資料の保存について、映像を見て分かりやすく示す。必要に応じてプリントを配布し、資料保存の意義について理解してもらう。専門用語も具体的に解説し、資料保存の全体像を把握出来るようにする。									
授業目標： 博物館資料の収蔵・展示等の環境を科学的に捉え、博物館資料を良好な状態で保存・継承していくための基礎的知識・技術を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。博物館における資料保存の重要性と実態について					事前：シラバスの確認 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 アンケート(20分)	
2	資料保存の目的と意義。博物館にとって資料の保存がどのように大切な、歴史と現状を理解する					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
3	博物館資料とは何か。民俗資料、歴史資料、考古資料、映像資料、複製等の保存と育成等について解説					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
4	経年劣化の原因、種類と対策。資料の属性により異なる経年劣化を理解し、その予防、進行阻止について					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
5	博物館資料の保存① 資料の環境。収蔵庫と展示室、貸出先など。資料を取り巻く具体的環境					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
6	博物館資料の保存② 温度、湿度、光と照明、振動などが資料に与える影響					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
7	博物館資料の保存③ 空気汚染と生物被害とIPM。燻蒸の変遷と現状、IPMの実施方法との関係					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
8	博物館資料の保存④ 災害の予防と対策。水害、火災、地震、盗難、破壊・汚損行為等について					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
9	博物館資料の保存⑤ 伝統的保存方法の事例を紹介し、その有用性を理解し、方法を学ぶ					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
10	博物館資料の状態調査。展覧会借用時の状態チェック。文化財調査と保存の為に調査と修復					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(40分)、 実習(50分)	
11	修復と保存処理。考古資料、紙資料等の各種資料毎の修復方法と、科学的調査と保存処理について					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
12	資料の梱包と輸送、展示作業。保存を最優先とする梱包や運送の実態について					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
13	建造物の保存、活用と野外博物館、民具。建造物や民具資料の保存と修復、展示方法と各種活用について					事前：指定する参考資料等用語を確認 事後：課題の作成。		講義(70分)、 レポート課題説明(20分)	
14	地域資源・自然環境の保全 景観・街並の保存と活用。「重伝建地区」、「文化的景観」、エコミュージアム等					事前：テキスト関連箇所を読む 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
15	まとめ。発表。レポート提出					事前：レポートの発表準備 事後：配布資料の内容確認		講義(30分)、発表、 ディスカッション(60分)	
教本：石崎武志『博物館資料保存論』講談社¥2,376(税込)他に資料プリントを適宜配布します。									
参考文献：必要に応じ、その都度提示します。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 博物館見学の課題を出します。資格取得必要科目なので、出来るだけ欠席しない事。欠席がある場合は追加で課題を出します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	博物館資料論（Materials of Museum）						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	博物館概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 博物館は資料を収集し、展示し、保存する学習機関です。博物館にはどのような資料が求められるのか。その入手形態にはどのようなものがあるのか。どのように共有することができるのか。現代社会における博物館のあり方も含めて授業を進める。									
授業目標： 博物館資料に関する基礎知識を習得してゆくこと。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	博物館の現代的位置付け					事前：なし 事後：復習		講義90分	
2	博物館資料とは何か					事前：なし 事後：復習		講義90分	
3	博物館法と資料					事前：なし 事後：復習		講義90分	
4	博物館資料の種類					事前：なし 事後：復習		講義90分	
5	野外資料の保存について					事前：なし 事後：復習		講義90分	
6	記憶の中の資料を形にする					事前：なし 事後：復習		講義90分	
7	ジオパークと博物館資料					事前：なし 事後：復習		講義90分	
8	資料情報のネットワーク化					事前：なし 事後：復習		講義90分	
9	「参加」する資料、ハンズオフ					事前：なし 事後：復習		講義90分	
10	ビジュアル型の資料の特色					事前：なし 事後：復習		講義90分	
11	写真、映像、コンピューター情報、実物					事前：なし 事後：復習		講義90分	
12	資料収集のあり方					事前：なし 事後：復習		講義90分	
13	「民俗誌」のあり方					事前：なし 事後：復習		講義90分	
14	「民俗誌」を書く					事前：なし 事後：復習		講義90分	
15	まとめと復習					事前：総合的な復習 事後：なし		レポート作成90分	
教本： なし			参考文献： その都度紹介する。						
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 最終的なレポートだけではなく、授業半ばで小さなレポートを課すこともあります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	博物館展示論（Museum Exhibition Theory）						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	「博物館概論」を受講していることが望ましい。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 博物館における展示は重要かつ不可欠な表現方法であり、機能である。展示の理論を学び、基礎的な展示技術を理解して習得する。									
授業目標： ① 様々な展示の諸形態に関する理論と展示方法に関する知識を習得。 ② 展示作成の基礎的な技術を習得。 ③ 解説文。パネル、展示解説書のあり方と作成方法、その基礎的な技術を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法等について。準備学習実施の確認と対応 自己紹介 様々な博物館の概要					事前：様々な展示を見学する 事後：配布資料の内容確認		講義(70分) アンケート(20分)	
2	展示の意義1 展示とは何か 展示の目的、役割、コミュニケーションのあり方					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(60分) ワークシート(30分)	
3	展示の意義2 展覧会の進行 調査研究と展示の関係。具体的事例展覧会の進行について説明。					事前：前回資料を確認する 事後：配布資料の内容確認		講義(60分) 小テスト(30分)	
4	展示の意義3 展示の歴史①ヨーロッパと日本の展示の歴史と社会 デパート展と大規模企画展。巡回展の歴史と実態様々な政治体制と博物館展示の政治性と社会性					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(60分) ワークシート(30分)	
5	展示の意義4 展示の歴史② 昭和後期から現代まで デパート展と大規模企画展のあり方。巡回展の歴史と実態					事前：前回資料を確認する 事後：配布資料の内容確認		講義(60分) グループワーク(30分)	
6	展示の意義5 展示の諸形態 常設展示、企画展示（特別展示）、巡回展示、その他の展示 展示手法として テーマ展示、分類・系統展示、通史展示、生態・動態展示					事前：指定する博物館のHPを確認する 事後：配布資料の内容確認		講義(60分) 小テスト(30分)	
7	展示の実際1 展示制作① 常設展示の制作 構想から基本計画・基本設計 資料収集、複製製作、模型製作、図録製作等					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(70分) ワークシート(20分)	
8	展示の実際2 展示制作② 企画・採用・実施決定のプロセス 企画書開催要項案、展示構成とレイアウト図、資料リスト 実施計画 評価と実施体制					事前：指定する博物館のHPで企画展示を確認する 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、演習(45分)	
9	展示の実際3 展示制作③ デザイン・技術・施工・印刷 デザインの統一 資料リストと施工図、様々な印刷物（ポスター、チラシ、カタログ、内覧会招待状等）					事前：チラシ等を博物館HPで見る 事後：配布資料の内容確認		講義(70分) ワークシート(20分)	
10	展示の実際4 関係者との様々な協力と連携 他館、所蔵者、専門業者 資料借用 協定書の締結 運搬と設置、返却					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(80分) ワークシート(10分)	
11	展示の実際5 展示の評価と改善・更新 配置計画と動線計画 来館者調査と展示改善 事前評価と事後評価、外部評価					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(60分) ディスカッション(30分)	
12	展示作成1 展示ストーリーラインと資料、解説系 企画書の作成					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、演習(45分)	
13	展示作成2 解説文と解説パネル 展示デザインとパネル・映像 展示解説書 展示図録 パンフレット チラシ					事前：関連事項をネットで検索 事後：配布資料の内容確認		講義(70分) 小レポート作成(20分)	
14	展示作成3 解説文と解説パネル作成。実際に展示キャプションと解説文を作成する。授業内テスト。					事前：関連事項をネットで検索 事後：課題レポート作成継続		講義(15分)、テスト(75分)	
15	まとめ 全体をまとめた説明。第14回のテストの結果について解説。授業全体について振り返り。質問の受付等。					事前：課題発表の確認 事後：配布資料の内容確認		講義(45分) ディスカッション(45分)	
教本： 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。					参考文献： その都度提示します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 博物館見学の課題を出します。資格取得必要科目なので、出来るだけ欠席しない事。欠席した場合は追加で課題を出します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									